

きららだより

平成29年
7月号

7月の予定

1	土	
2	日	
3	月	YY
4	火	
5	水	EE・リズム・茶道
6	木	音楽
7	金	☆七夕集会・7月生誕生会
8	土	
9	日	
10	月	
11	火	
12	水	EE・リズム
13	木	音楽
14	金	YY
15	土	
16	日	病児大会(大阪)
17	月	海の日 ↓
18	火	
19	水	EE・リズム
20	木	音楽・運動
21	金	
22	土	★きらら祭り
23	日	
24	月	
25	火	
26	水	リズム・茶道
27	木	音楽・運動
28	金	お泊り保育・お弁当の日
29	土	↓
30	日	
31	月	

8月の主な予定

8日(火)～10日(木)
臨時特別保育
モンテ大会(東京)
12日(土)～15日(火)
お盆特別保育
15日(火) お弁当の日
その他避難訓練・身体測定

梅雨の時期になりました。晴れた日はとても暑く、雨の日は気温が下がって肌寒く体調を崩しやすい今日この頃です。栄養と休息をしっかり摂って元気に毎日を過ごしましょう。

たいよう組は先日、洋光台にある「はまぎん子ども宇宙科学館」へ出掛けました。前もって、たいよう会議の時間に行き先や行き方、持ち物、電車の乗り方、他の人への配慮・マナーについてよく話し合いました。「9時に能見台の駅に着く為には何時までに保育園に来れば間に合うのかな?」「9時じゃあ間に合わない!」とみんなで登園時間を考えました。

「京浜急行とJRの電車に乗って行くんだよね。」とワクワクな子ども達。改札を通るのも自分で切符を入れます。改札機に切符が吸い込まれていくのを物珍しそうに見ていました。ICカードで通れる時代。この様な体験も大切にしていきたいと思いました。

また、天候にも恵まれ暑い中、リュックを背負い自分の荷物は自分で持ち。疲れてしまった時は皆で励まし合いながら歩きました。科学館では全身で楽しみ、遊び、とてもいい経験となりました。お家の方、ご準備ありがとうございました。今月はきらら祭りや年長はお家の方と別れて一晩を過ごすお泊り保育があります。また子どもたちの成長を見るのが楽しみです。

夏季出欠予定表ご提出のお願い メ切 7月7日(金)

夏の予定を作る時期になりました。夏休みが決まっている方もいらっしゃると思います。私達職員も子ども達の出席数を加味しながら夏の研修に参加したり、夏季休暇を頂いたりさせて頂きたいと思います。お手数おかけしますが、保護者の皆様に夏季出欠予定表のご記入・ご提出にご協力下さい。別紙の出欠予定表にお休み(家庭保育が出来る日など)をご記入の上、ご提出ください。なお、お父様、お母様どちらかがお休みの場合は特別なご事情のない限り家庭保育をして頂きますようお願い致します。

※夏季の出欠予定については、提出日(7日)以降もお休みの予定がわかりしだい、連絡帳やメールでお知らせください。

お盆特別保育・モンテッソーリ全国大会期間中の特別保育について

8月12日(土)～15日(火)はお盆特別保育です。そして、職員の研修受講のためモンテッソーリ全国大会期間中8月8日(火)～10日(木)も特別保育になります。東京で開催する大会なので、できるだけ多くの職員が参加し、今後の保育に生かしたいと思います。保育の質の向上のためどうぞご協力下さい。この特別保育期間中の保育のご希望は別途お申込みが必要です。申込用紙は、事務室前のカウンターに置いてあるので、記入してご提出下さい。特別保育の事前申し込みが漏れてしまいますと、保育の体制が整えられないことがありますので当日保育のご希望をされてもお断りさせて頂かなくてはなりません。提出期限までのご提出を忘れずにお願い致します。特別保育期間は合同保育になり、担任保育士も替わる事がありますのご承知おきください。

特別保育の申込みメ切 7月7日(金)

育児講演会 ～先生講演会「生命が育つお手伝い-子どもの役割、大人の役割-」より～

6月の育児講演会には、先生(国際モンテッソーリ協会 AMI 公認教師)が講師としてお話し下さいました。内容の一部をご紹介します。

モンテッソーリ教育の大切な目的の一つに「人間の自立」があります。子どもの自立心を育む大人の態度や声かけはどんなものでしょう。一方、どんな行為や言葉がそれを阻害するのかを考えてみましょう。

子どもの中には「一人のできるように手伝って下さい」という生命の願いがあります。自分でやりたいという気持ちを見逃さずに、やらせてあげる努力を大人ができれば、子どもはイキイキした状態になります。

子どもが何か一人でできないときに“魔法の言葉”があります。「手伝ってもいい？」です。この言葉が大人から出るか出ないかで子どもの気持ち、そして反応が全く違ってきます。手伝う時には必ず子どもにお伺いを立てましょう。できない時に大人が黙って全てやってしまうと子どもは癩癩を起こすほど怒るか、逆に大変無気力な子になってしまうか、困った行動につながってしまいます。

そして経験を積む上で必要なことは“失敗は友達”ということです。最初から失敗して怒られるとやらなくなります。こぼしたら拭けるように布巾を用意しておくこと、できなくても繰り返し挑戦する時間を与えることが必要です。大人は完璧を求めず、最初からできることを望まずに徐々に自分でできることが増えていくようにストライクゾーンを広く持つ心構えでいましょう。

例えば、家が汚れることを怖れてダメと制限され続けていると子どもは警戒して、外へ遊びに出掛けても親から離れられなくなることがあります。また、離乳食の時期に汚れるのが嫌だからといって自分の手を使って食べさせないで大人が口へ運ぶだけで済ませてしまうと、子どもも自分で手を伸ばさずに口へ運ばれるのを待ち、受け身になってしまいます。こぼしても汚しても大丈夫なようにシートを敷くとか、布巾をたくさん用意しておくとか、大人は子どもの身辺自立・精神的自立に工夫が必要なのです。

知的な自立において必要なポイントは“選ぶ体験”をすることです。選ばせることは一瞬でも自分の頭で考えさせるチャンスとなります。例えば、朝ごはんをパンにするか、ご飯にするか聞いてあげます(もちろんどちらを選んでも良いように準備して下さいね)。もし、ご飯を選んで途中で「やっぱりパンがいい。」と意見が違うものになったら「そうなんだ。じゃあ明日ね。」と受け止めながらも軽く受け流します。取り替えてあげることはしません。失敗も大切だからです。選んだ結果を体験させます。“選ぶってよーく考えなくちゃいけないんだ”ということが学びとなり考える力になります。選ぶ責任を子ども自身に取らせなかったら、いずれ他人のせいにしてしまう性質が身につけてしまいます。そこは、もし子どもが癩癩を起してもに負けずに「じゃあ、次の時にね。」とクールに対応しましょう。失敗体験が必要といっても「あなたが選んだんでしょ！」という攻める態度ではいけませんね、子どもと同じ土俵に立ってはいけません。子どもの残念な気持ちには共感してあげましょう。

選ばせるポイントは他にもあります。たくさんの中からは選べないので、どれを選んでも良いものを用意すること。その際、選んでほしくないものは入れないようにします。

知らないものは選べません。そうすると五感を使った原体験が沢山あればあるほど子どもの選択肢は広がります。幼児期は五感の感覚が発達するので敏感に感じ取ることができる貴重な時期です。例えば、海の青い色と空の青い色の違いがわかります。わずかな匂いの違いを嗅ぎ分けられる鋭さがあります。私()は幼い子を持つお母さんによく“泥んこ遊びデビューをしましょう”と言っています。子どもは本物が大好きです。ごますり、パンをこねる、鉛筆をナイフ(安全性の高い小刀)で削る、洗濯板で洗濯をするなどの日常生活が大好きです。ぜひ、お家のお手伝いを見つけて一緒にやってください。ゆったり時間をとって…。